看護人類学入門

Introduction to Nursing Anthropology

うんこの哲学

De modo cacandi

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
Center for the Study of Communication-Design, CSCD
池　田　光　穂
IKEDA Mitsuho

冒頭のエピソードのポイント

- **豚が人間の排泄物を食べることは，すでに知識としては知っていました．しかし，体験として眼の前で繰り広げられたあの衝撃は忘れられません．体外に出された瞬間から（その文化的公準によって）マイナスの価値が付与される排泄物です．汲み取り便所に落とされるか，それとも水に流されるか．自分の糞尿は早く消えてほしい存在なのではないでしょうか．……にもかかわらず，まだ温かいと思われる「それ」が眼前で食されるとき，まるで自分自身の身体が喰されるような感覚，あるいは汚されるような感覚を体験したのです．**

排泄習慣の文化相対性

- 排泄の慣習，ひいては糞尿そのものに対して，人々がどのような感情や理解を行うかは，文化によって相対的に決まるといわれています．すなわち，それらの意味づけは社会集団によってある共通の行動パターンや意味づけがあり，またそれらはそれぞれの文化にとって独自性をもっています．

清潔すぎるトイレは？

- 英国の社会人類学者のメアリー・ダグラス（1921～2007）は1966年に名著『汚穢と禁忌』をあらわし，その冒頭で，訪問した家で髪の毛一本も落ちていない清潔なトイレに案内されたときの不安から，その本を書き起こしています．文化の分析にとって，この感覚を研ぎ澄ますことが重要なことのようです．

便所の神様

- **興味深いことに，地方でみられる家伝薬の秘密伝授の逸話がありますが，それらの中に，家伝薬の創始者である家の当主が，便所で河童の手をもぎ取り（これは先に述べたように厠神の手の欠損を想起させます）その奪った手を返してやる代わりに秘法を河童から教わったというものがあります．どうやら厠の神さまは特異な姿をした異人であり，彼（女）らは私たちに（病気なおしの）秘密や知識を授けることができ，何かしらの契約によりその能力を人間が得たということなのです．**

便所掃除の効用

- **妊婦が便所掃除をすると「器量のよい」子どもが生まれるという言伝えがあったところが多いのです．こちらは苦役や懲罰としての便所掃除ではなく，ご利益を被るための便所掃除です．きれいな便所と器量のよい子どもの関係は，類似にもとづく観念連合といわれてきたものです．むろん，日本の社会は基本的には父系親族ですので，外来者である嫁に対して夫の親族が苦行を押しつけるための言い訳であったと，解釈することもできないわけでもありません．しかし，器量のよい子どもを将来授けてくれるだけでなく，便所の神さまはお産を軽くしてくれると考えられた伝承もあることは，懲罰的な色彩は少なく，やはり善行には見返りというよい動機付け（インセンティブ）になっていたようです．**

真夜中のカウボーイ

- バスの後部座席で突然しくしく泣き出す詐欺師に，カウボーイはその理由を尋ねます．詐欺師はおしっこの「お漏らし」をしたことを恥じて泣き出したのです．／排尿のケアについて考える時に，一番最初に私の頭の中に思いめぐったことは，映画のこの情景です．ひどく狼狽する詐欺師に対して，カウボーイは詐欺師のことを咎めだてることはしません．それほど彼の病状は悪いのだろうか．そして，このことは映画を観ている私をひどく安心させます．ここでのケアにとって重要なことは，病む人に「咎めだてしない」寛容性のことなのではないかと確信する瞬間です．

排泄の心理と真理

- 排泄の生理現象を感じとって，それを自己の身体の管理下におくことは，幼児の社会化にとって不可欠の経験であると同時に，きわめて心理的達成度の高い経験なのです．そのことを「よくできたね」と大人もまた祝福します．そのため，さまざまな文化には排泄に関わる慣習があり，それを幼児に訓練することが行われます．排泄と性欲に関する幼児への訓練は，どの民族や文化においても人間成長の早い時期に行われ，比較的タブーに縛られることも多いのです．だからこそ，そのような社会では不本意にも「お漏らし」をすることは，きわめて心が傷つくことになります．

排泄のエロスと性差

- 排泄は日常生活の中で最も簡便に得られるエロス的快感です．ここで私は，先に述べたようなスカトロジック（糞便趣味）的な性欲のことを言うのではありません．そうではなく，排尿にせよ排便にせよ，それらは身体の健康のバロメータであり，またそのことを認める社会が多いことを言っているのです．もっとも排泄の快感を社会的につまびらかにするか否かについての差異は大きいとは思いますが．ともに老廃物を身体に放出する行為が，その快感の源泉になっているのですが，そこには自ずから社会的に規定された男女の差異，つまりジェンダーによる違いがあるようです．

排泄慣習は変化する

- 現代日本の住宅環境の急速な変化は，排泄の伝統的な概念や継承されてきた行動様式そのものに大きな影響を与えました．雪隠や便所神はもはや死語といっても過言ではありません．総じて，現代日本人は排泄物への強いタブー意識を伝統的に持ち，現代では排泄物の脱臭や芳香に過剰に神経をすり減らしているきらいがあります．排便や排尿におけるおかしさや笑いという解放的な要素を抑圧して，糞便と正面切って向き合うことを，患者のみならず看護者も避けるようになってきました．そのため医療器具のすばらしい進歩に対して，排泄に関する人間科学的なケア技術は私たちの社会の文化的伝統の中に十分生かされていないどころか，いよいよ衰退するばかりです．

排泄介助のレッスン

- 福祉型の医療へのニーズの増大に伴って，看護領域におけるケア技術が，今後ますます社会に還元されてゆく必要があります．かつては，患者の日常生活態度を理解するために社会的文化的背景を知ることが看護者に要求されてきました．今後は看護者がさまざまな分野で，それまで培ってきたケア技術を社会に移転する必要が生じてくるでしょう．排尿の援助は，その実践の社会的意義を考える格好の実例になるでしょう．

排泄現象を考える４つの項目

- （1）排泄の生理と行動は社会的に学習されます．
- （2）排泄と羞恥心の結びつきには，社会差や個人差が大きく影響します．
- （3）ジェンダー（社会的性差）によって排泄の意識は異なります．
- （4）排泄のケア技術を社会的に還元するようにアクションを起こそう．